

目標IX 文化芸術の振興

施策 27 文化芸術活動の充実

- [1] 文化芸術活動への参加の促進
- [2] 子供たちの文化芸術活動の充実
- [3] 障害者の文化芸術活動の支援
- [4] 県立美術館などにおける活動の充実 **重点項目 10-②**
- [5] オリンピック・パラリンピックなどの開催を契機とした文化芸術活動の振興

*が付された予算額は会計年度任用職員給与費を含んでいます。

○ 埼玉県芸術文化祭の開催 (8,782千円) (担当:文化資源課) [1]

(1) 地域文化事業

市町村や文化団体との共催により、地域における伝統文化の継承や文化活動の発表機会の提供及び文化活動の鑑賞・体験・交流機会の拡充を目的として、地域に根ざした文化事業を開催する。

- ・ 伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会など県内各地で開催
- ・ 開催時期 令和4年8月～12月



地域文化事業
(小鹿野子ども歌舞伎)

(2) 第70回記念埼玉県美術展覧会(通称:県展)

県民が創作した美術作品を発表する場として、県立近代美術館で開催する。

- ・ 日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門の作品を公募
- ・ 開催期間 令和4年6月1日(水)～6月23日(木)



第69回県展会場風景
(彫刻部門)

(3) 芸術文化ふれあい事業

文化団体の専門家を学校や公民館などに派遣し、公演や実技指導を行う。

- ・ 音楽、美術、舞踊、演劇・演芸、文芸、生活文化、国際交流の7分野
- ・ 実施期間 令和4年4月～令和5年3月

(4) 協賛事業

埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の関連事業として承認する。

- ・ 実施期間 令和4年4月～12月

○ 障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 [3] (施策13参照)

○ 県立博物館・美術館等における教育・普及事業 (担当:文化資源課) [4]

近代美術館において、学校との連携事業や、作品鑑賞をもとにしたワークショップ・講座などを実施する。また、歴史と民俗の博物館をはじめとする全ての県立博物館等において、学校との連携事業や地域資源を活用した体験プログラムなどを実施する。

施策 28 伝統文化の保存と持続的な活用

- [1] 伝統文化の保存・活用・価値の再評価
- [2] 伝統文化の魅力発信と学ぶ機会の充実
- [3] 市町村の取組への支援

重点項目 10-①

重点項目 10-②

*が付された予算額は会計年度任用職員給与費を含んでいます。

○ 文化遺産調査活用事業 (3,044千円*) (担当:文化資源課) [1][3]

埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を世界に発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査を実施するほか、文化財保存活用地域計画を策定する市町村に対して支援を行う。

- ・ 無形民俗文化財調査:「巡り・廻りの民俗行事」の調査
- ・ 自然遺産調査:入間川流域を中心とした「入間川流域自然遺産」の調査
- ・ 歴史遺産調査:江戸時代に編纂された「新編武蔵風土記稿」に係る文化財の調査
- ・ 地域の文化財保存活用に係る市町村の取組への支援:文化財保存活用地域計画を作成した他県市町村の事例調査や市町村担当者向けの研修会開催、文化財保存活用地域計画作成中の市町村に対する助言等
- ・ 博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業:児童生徒が実感的に学びながら、文化・文化財の価値を理解し、郷土に愛着を持つことができるよう、博物館・美術館等と学校との連携を支援

○ 文化財保護事業補助 (116,511千円) (担当:文化資源課) [1]

文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付し、指定文化財の適切な管理を図る。

- ・ 国指定文化財、県指定文化財の保存事業に対する補助金の交付
- ・ 埋蔵文化財包蔵地内で行われる建設工事に先立ち、市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付
- ・ 県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業に対する補助金の交付
- ・ 国指定文化財、県指定文化財の防災設備整備及び災害復旧など緊急対応等に対する補助金の交付

○ 特別史跡埼玉古墳群保存活用事業 (15,962千円*) (担当:文化資源課) [1]

本県を代表する文化遺産であり、学術上の価値が特に高く我が国文化の象徴である特別史跡に指定されている埼玉古墳群は、大型古墳9基を中心とする東日本屈指の古墳群である。この埼玉古墳群の恒久的な保存を図るとともに、その価値を顕在化させ、広く県民に公開するために必要な整備を行う。

- ・ 保存整備協議会の開催
- ・ 二子山古墳発掘調査報告書の刊行
- ・ 案内・解説板の整備
- ・ 奥の山古墳・丸墓山古墳整備報告書の刊行



特別史跡埼玉古墳群 遠景

○ 埋蔵文化財保存活用事業 (51,564千円) (担当:文化資源課) [1]

県が収蔵する出土文化財の整理・保存を推進し、埋蔵文化財保護思想の啓発を図る。

- ・ 埼玉県文化財収蔵施設の活用
- ・ 出土文化財の整理・保存処理を継続的に実施するとともに、学術研究のほか、学校教育及び社会教育の場で活用し、生涯学習を推進

○ 県立博物館・美術館等における活動の充実 (担当：文化資源課) [2]

- (1) 歴史と民俗の博物館～ 埼玉の「いま」と「むかし」を体験する人文系総合博物館 ～
 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、子供たちの感性を育む体験的事業を行う。



白地薔薇模様銘仙・単衣

企画展・特別展	期 間	内 容
企画展「埼玉武術英名録」	R4. 3. 19 ～ 5. 8	剣術、柔術を中心とする、埼玉県ゆかりの武術諸流派や歴史上に名を残した武者などを紹介する。
「発掘された日本列島 2022」	R4. 6. 11 ～ 7. 18	全国で行われている多くの発掘調査のうち、近年特に注目された成果を公開する全国巡回展。文化庁と共催。
企画展「銘仙」	R4. 10. 15 ～ 12. 4	県内では秩父地域が産地として有名な絹の着物銘仙。当館所蔵の銘仙コレクションを中心に紹介する。

- (2) 史跡の博物館～ 大地に刻まれたいにしへのロマンを再発見する史跡系博物館 ～
 特別史跡「埼玉古墳群」・国指定史跡「比企城館跡群(菅谷館跡)」に位置する史跡系博物館として、県内の遺跡から出土した遺物の展示や様々な体験学習を通して郷土の歴史に関する理解を深める事業を行う。



家形埴輪
(瓦塚古墳出土)

企画展・特別展	期 間	内 容
埼玉の考古おひろめ展 「地中からのメッセージ」	R4. 7. 16 ～ 9. 4	近年発掘調査された遺跡から出土した資料や、新指定資料、話題となった遺跡や資料などを公開する。 (さきたま史跡の博物館)
企画展「武蔵武士と源氏-鎌倉殿誕生の時代」	R4. 10. 1 ～ 11. 14	畠山重忠や比企氏を中心に、鎌倉と本拠にかかわる出土品や歴史資料から彼らの足跡を辿り、「鎌倉殿」誕生の時代を紹介する。 (嵐山史跡の博物館)
企画展「家形埴輪の世界(仮)」	R4. 10. 8 ～ 11. 27	県内及び近県出土の家形埴輪を展示し、その変遷や意義について考える。また、住居跡や出土した建築材などから、古墳時代の住まいを探る。 (さきたま史跡の博物館)

- (3) 自然と川の博物館～ 自然と人々との共生を創出する自然系総合博物館 ～
 県内唯一の自然と環境分野を主題とした博物館として、恵まれた立地条件を活かし、自然と環境をキーワードとした体験を通じて楽しく学べる事業を行う。



荒川で採集した蛇紋岩

企画展・特別展	期 間	内 容
企画展「生きものの名前」	R4. 3. 12 ～ 6. 19	和名、学名、地方名など自然界に見られるものには色々な名前が付けられている。本展示では当館が扱う資料を中心に名前の付け方やルールなどを紹介する。 (自然の博物館)
企画展「奥秩父の自然」	R4. 7. 2 ～ 10. 16	1都3県に跨る標高2,000m級の奥秩父山地。本展示では、奥秩父の岩石や生息する動植物を紹介する。 (自然の博物館)
特別展「海なし雪なし火山なし」	R4. 7. 9 ～ 8. 31	海、根雪、火山など、埼玉に「ない」ものに着目し、日ごろ接する機会の少ない他地域の自然について知る機会を提供するとともに、他地域との比較によって改めて埼玉の自然の特徴を明らかにし、埼玉の風土や文化について考える。(企画：自然の博物館、実施：川の博物館)
特別展「The 蛇紋岩」	R4. 10. 29 ～ R5. 2. 26	蛇紋岩は、美しい濃緑色と独特の手触りの岩肌を有し、埼玉県産のものは国会議事堂の石材としても利用されている美しい石である。蛇紋岩の地質学的特徴や、蛇紋岩とともに産出する鉱物、石材としての利用を紹介する。 (自然の博物館)
企画展「自然の色と模様」	R5. 3. 11 ～ 6. 18	自然界に見られる様々な「色」や「模様」に焦点を当て、その多様性や役割について紹介する。 (自然の博物館)

(4) 近代美術館～ 埼玉と世界を結ぶ新たな美術との出会いがある美術館 ～

埼玉を核としながら、県内外の優れた美術作品を収集、展示するとともに、独自のテーマによる密度の高い企画展を開催する。また、美術への理解と関心を高め、創造の喜びを体験する各種の普及事業を行う。



戸谷成雄《森 IX》2008年
ベルナルド・ビュフェ美術館蔵
©Shigeo Toya, Courtesy of ShugoArts

企画展・特別展	期 間	内 容
開館 40 周年記念展：扉は開いているかー美術館とコレクション 1982—2022	R4. 2. 5 ～ 5. 15	1982年11月3日に開館し、2022年に開館40周年を迎える当館の活動を、収蔵作品や資料によって振り返るコレクション展。
田中保とその時代（仮称）	R4. 7. 16 ～ 10. 2	田中保（1886-1941）は岩槻に生まれ、18歳でシアトルに渡り画家の活動を始め、1920年にパリに移住すると肖像画や裸婦像を中心に自らの芸術を開花させた。当館所蔵の作品を核としながら、田中の画業を振り返る。
桃源郷通行許可証	R4. 10. 22 ～ R5. 1. 29	芸術に触れることは、私たちが今立つ現在地から遠く離れた時間や空間を経験することでもある。本展では、現在活躍中の作家の作品と当館のコレクションとが会おう新たな空間の創出を試みる。
戸谷成雄	R5. 2. 25 ～ 5. 14	県内在住の戸谷成雄（1947-）は70年代から彫刻家として活動を始め、戦後の日本美術における彫刻表現を牽引してきた。本展では初期作品や「森」シリーズなどの代表作を紹介し、活動の全貌を振り返る。

(5) 文書館～ 郷土の歴史と記録を伝える埼玉の“ふみくら”～

埼玉に関する歴史的・文化的に価値のある記録資料を収集し、県民共有の財産として保存するとともに、これらを活用して教育、学術及び文化の発展に寄与するため、展示や講座などの事業を行う。

企画展	期 間	内 容
夏季展示「地図と遊ぼう」（仮）	R4. 7. 1 ～ 9. 4	子供向けに、夏休み展示として文書館が収蔵する特筆すべき地図や絵図などを紹介する。
秋季展示「埼玉の中世文書」（仮）	R4. 9. 20 ～ 11. 20	鎌倉殿のその後の時代における東国武士の姿を、主に室町時代から戦国時代にかけて、文書館が収蔵する中世文書から紹介する。また、期間中に、鎌倉時代の文書を含む「安保文書」の全点公開を行う。
冬季展示 国指定重要文化財埼玉県行政文書公開「感染症と対策の歴史」（仮）	R4. 12. 13 ～ R5. 2. 12	過去から現代までの医療や疫病の歴史について、国指定重要文化財埼玉県行政文書や古文書などから紹介する。
春季展示「新収集公開文書展 古沢家文書」（仮）	R5. 3. 7 ～ 5. 7	令和2年度と3年度に古沢家文書目録(1)(2)が刊行されたことに伴い、大里郡大麻生村（現熊谷市）に所在した古沢家の政治、商業・金融、地域の産業に関する文書、公私に渡る書状などを紹介する。

(6) さいたま文学館～ 県民の文学活動の拠点となり、文学を通して埼玉を発見する文学館 ～

本県にゆかりのある文学者の作品や関連資料を収集・保存・調査研究し、常設展・企画展での展示や図書室での閲覧などにより文学の振興を図るとともに、県民が文学活動に参加する機会を提供する。

企画展	期 間	内 容
企画展「埼玉妖怪見聞録」	R4. 4. 27 ～ 6. 5	江戸時代の文献や県内で語り継がれている伝説などを素材に県内で見聞されたさまざまな妖怪を紹介する。妖怪を題材にしたゆかりの文学者の作品や館蔵「安藤鶴夫コレクション」の妖怪玩具なども展示する。
巡回展「“もっと、変な話をしたい。－異界への招待 第28回萩原朔太郎賞受賞者マーサ・ナカムラ展」	R4. 7. 16 ～ 8. 28	埼玉県出身で現在活躍中の新進気鋭の詩人である、マーサ・ナカムラを取り上げ、2021年に水と緑と詩のまち前橋文学館で開催した展覧会の巡回展を本県で初めて開催し、詩人の世界を紹介する。
開館25周年記念特別展「永井荷風」	R4. 9. 17 ～ 11. 27	さいたま文学館の永井荷風関連所蔵資料は、質、量ともに全国随一を誇る。開館25周年を記念して、日本近代文学に燦然と輝き、数々の文豪に影響を及ぼした永井荷風の事績を紹介する。
企画展「金田一耕助さん、埼玉で事件ですよ！」	R5. 1. 21 ～ 3. 12	「金田一耕助シリーズ」で知られ、生誕120年を迎える推理作家・横溝正史を取り上げ、昭和32年の戸田市を舞台とした「貸しポート十三号」の話を導入とし、77話に及ぶシリーズを事件発生順で紹介する。

○ 博物館、美術館におけるSNS等による情報発信（担当：文化資源課）【2】

各館でSNS等を活用し、企画展やイベント、収蔵品の紹介を行い、博物館、美術館の魅力や埼玉の文化財をより広く伝える。また講座や体験事業の動画を配信することで、多くの県民に学びの機会を提供する。